

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	三厩地域水産業再生委員会
代表者名	委員長 佐々木信昭

再生委員会の 構成員	三厩漁業協同組合、外ヶ浜町、青森地方水産業改良普及所
オブザーバー	青森県漁業協同組合連合会

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	青森県外ヶ浜町三厩地域 一本釣漁業 79経営体 いか釣漁業 5経営体 さめ延縄漁業 8経営体
-------------------	---

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

三厩地域は、津軽半島東側に位置し津軽海峡に面した沿岸漁業が中心の地域である。漁獲状況は、過去5年平均値が漁獲数量502t、漁獲金額469百万円で、主要魚種のクロマグロは、漁獲数量82t、16.3%、漁獲金額302百万円、64.4%を占めている。近年は、主力魚種であるマグロ、スルメイカ等の回遊性魚類の来遊量の減少により、平成18年から平成20年までの平均漁獲量の790tと比較すると63.5%に止まっており、さらに水産物の消費量の減少による魚価の低迷と漁業資材及び燃油の高騰は漁業経営を圧迫する厳しい現状となっている。

(2) その他の関連する現状等

組合員年齢構成は、70才以上の組合員が72名、60才代が30名、50才代が10名、40才代が6名の計118名となっており、更に担い手となる組合員の家族で出漁している人数は、30代が2名、40代が1名、50代が2名という現状となっており、今後組合員を確保するための対策が必要となる。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

漁業収入向上のための取組

①魚価の向上を目指し、漁獲物の鮮度保持技術の習得と船上活〆処理等による品質管理を図る。

②地産地消事業に取り組み、魚の消費拡大を図る。

③種苗放流事業に取り組み、磯根資源の保護増殖を図る。

漁業コスト削減のための取組

①船底清掃及び減速航行に取り組み、漁業経費削減を図る。

その他の取組

①組合員確保のための取組を検討する。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

青森県における小型いかつり漁業の資源管理計画に基づく公的制限の遵守と自主的管理措置の実施。
青森県津軽海峡海域における一本釣り漁業、アブラツノザメはえ縄漁業及びタコ籠・はえ縄・タコたる流し漁業の資源管理計画に基づく自主的管理措置の実施。
青森県津軽海峡における採藻漁業の試験管理計画に基づく自主的管理措置の実施。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成26年度）

以降、以下の取り組み内容は、取り組みの進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて、見直すものとする。

漁業収入向上のための取組	<p>一本釣り漁業 漁業者と漁協は、一定サイズ（50kg）以上のクロマグロについて、市場からの要望を踏まえ、血抜き、尾鰭切断、神経締め、内蔵処理を行った後、殺菌海水での洗浄、砕氷と殺菌海水での水氷冷却までの一連の作業を船上で行うこととし、全漁業者が対応できるよう水産業改良普及所等の関係機関の協力を得て、これらの処理の詳細を記載する「クロマグロ船上処理マニュアル」の作成に取り組む。 また、通常流通されていないクロマグロの内蔵の一部（心臓、胃袋）について県内水産加工業者等と連携し、ぬめり、臭いを除去するため、次亜塩素酸を含む淡水（ハセツパー水という）による殺菌処理の実施を徹底することで、商品化を目指す。 クロマグロ以外の鮮魚出荷するサクラマス、ソイ等について、漁業者は漁協が実施する水産物鮮度保持講習会に参加し、綺麗な魚体を保つための必要最小限の活〆跡となるよう処理技術の向上を図るとともに、砕氷を活用して低温管理を徹底し、漁協は活〆処理したものを他の鮮魚と区別して出荷することにより、単価の向上を目指す。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、イカを釣り上げた後、季節毎に砕氷の量を調整しながらイカが綺麗に並ぶよう表面が平になるようコテを使用して砕氷を箱の底部に押し詰めた発砲スチロール箱に迅速に詰め込み、混入物がないようすぐに蓋をし、さらに直射日光等による高温化を防ぐため魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底することで単価の向上を図る。なお、溶解水によるイカの体色変色を防止するため箱の底部に水抜き穴のついた発砲スチロール箱を利用して白色化を抑制する。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、加工場等の要望を受け、サメを釣り上げた後、血抜き、神経締め処理を施し砕氷冷却し鮮度保持に努め、出荷時には殺菌海水で洗浄しさらに低温管理を徹底し鮮度保持に努め単価の向上を図る。 また、さめ延縄漁業8隻は、マリン・エコラベル・ジャパン生産段階認定を受けており、資源管理計画に基づき小型個体1.5kg以下及び特大個体8kg以上のアブラツノザメの放流にも取り組む。</p> <p>その他漁業 漁業者は、漁協及び水産業改良普及所等と協力し枯渇した磯資源を再生するため、区画漁業権内に保護区を設定し、スポアバッグ方式でヨレモクの母藻を設置し藻場を造成する。また、藻場造成後はモニタリングを定期的実施しキタムラサキウニを駆除しながら密度管理を徹底する。 さらに、漁業者は、稚ナマコ種苗を購入し、潜水による放流事業を進め、害敵駆除や漁獲サイズ規制（100g以下個体の再放流）による資源管理を徹底し、密漁防止の漁場監視等の活動をあわせて行うことで放流効果を向上させ、漁獲量・漁獲金額の向上を目指す。</p>
--------------	---

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>一本釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費1.3%の削減を図る。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.2ノットの減速航行に努め燃油消費量を2.8%減らし漁業経費0.7%の削減を図る。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費0.5%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業 水産多面的機能発揮対策事業</p>

2年目（平成27年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>一本釣り漁業 漁業者と漁協は、水産改良普及所及び関係機関と協力し前年から取り組んだ「クロマグロ船上処理マニュアル」を完成させ、漁業者は、血抜き、尾鰭切断、神経締め、内蔵処理を行った後、殺菌海水での洗浄、砕氷と殺菌海水での水氷冷却までの一連の作業を手順良く迅速に実施し単価の向上を図る。 また、通常流通されていないクロマグロの内蔵の一部（心臓、胃袋）について、ハセツパー水を活用し、ぬめり、臭いの除去及び殺菌処理を実施した試作品を県内外加工業者等に紹介し、商品化を目指す。 クロマグロ以外の鮮魚出荷するサクラマス、ソイ等について、漁業者は水産物鮮度保持講習会で修得した技術により、船上で綺麗な魚体を保つための必要最小限の活〆跡となるよう処理するとともに、砕氷を活用して十分な低温管理を徹底し、漁協は活〆処理したものを他の鮮魚と区別して出荷することにより、単価を向上させる。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、イカを釣り上げた後、季節毎に砕氷の量を調整しながらイカが綺麗に並ぶよう表面が平になるようコテを使用して砕氷を箱の底部に押し詰めた発泡スチロール箱に迅速に詰め込み、混入物がないようすぐに蓋をし、さらに直射日光等による高温化を防ぐため魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し単価の向上を図り、溶解水によるイカの体色変色の防止や鮮度保持に努め目標年の漁業所得12.9%向上を目指して取り組む。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、サメを釣り上げた後、血抜き、神経締め処理を施し砕氷冷却し鮮度保持に努め、出荷時には殺菌海水で洗浄しさらに低温管理を徹底し鮮度保持に努め単価の向上を図り、目標年の漁業所得4.5%向上を目指して取り組む。 また、さめ延縄漁業8隻は、マリン・エコラベル・ジャパン生産段階認定を受けており、資源管理計画に基づき小型個体1.5kg以下及び特大個体8kg以上のアブラツノザメの放流にも継続して取り組む。</p>
---------------------	--

	<p>その他漁業 漁業者は、漁協及び水産業改良普及所等と協力し枯渇した磯資源を再生するため、区画漁業権内に保護区を設定し、スポアバッグ方式でヨレモクの母藻を設置し藻場を造成する。また、藻場造成後はモニタリングを定期的を実施しキタムラサキウニを駆除しながら密度管理を徹底する。 さらに、漁業者は、稚ナマコ種苗を購入し、潜水による放流事業を進め、害敵駆除や漁獲サイズ規制（100g以下個体の再放流）による資源管理を徹底し、密漁防止の漁場監視等の活動をあわせて行うことで放流効果を向上させ、漁獲量・漁獲金額の向上を目指す。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>一本釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費1.3%の削減を図る。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.2ノットの減速航行に努め燃油消費量を2.8%減らし漁業経費0.7%の削減を図る。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費0.5%の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	水産多面的機能発揮対策事業

3年目（平成28年度）

漁業収入向上のための取組	<p>一本釣り漁業 漁業者は、前年完成したクロマグロ船上処理マニュアルを活用し、血抜き、尾鰭切断、神経締め、内蔵処理を行った後、殺菌海水での洗浄、砕氷と殺菌海水での水氷冷却までの一連の作業を手順良く迅速に実施し単価の向上を図り、目標年の漁業所得11.3%向上を目指して取り組む。 また、通常流通されていないクロマグロの内蔵の一部（心臓、胃袋）について、ハセツパー水を活用し、ぬめり、臭いの除去及び殺菌処理を実施したものを商品化して県内外加工業者等と提携して販売し、漁業所得の向上を目指す。 クロマグロ以外の鮮魚出荷するサクラマス、ソイ等について、漁業者は水産物鮮度保持講習会で修得した技術により、船上で綺麗な魚体を保つための必要最小限の活メ跡となるよう処理するとともに、砕氷を活用して十分な低温管理を徹底し、漁協は活メ処理したものを他の鮮魚と区別して出荷することにより、単価を向上させる。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、イカを釣り上げた後、季節毎に砕氷の量を調整しながらイカが綺麗に並ぶよう表面が平になるようコテを使用して砕氷を箱の底部に押し詰めた発泡スチロール箱に迅速に詰め込み、混入物がないようすぐに蓋をし、さらに直射日光等による高温化を防ぐため魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し単価の向上を図り、溶解水によるイカの体色変色の防止や鮮度保持に努め目標年の漁業所得12.9%向上を目指して取り組む。</p>
--------------	---

	<p>さめ延縄漁業 漁業者は、サメを釣り上げた後、血抜き、神経締め処理を施し砕氷冷却し鮮度保持に努め、出荷時には殺菌海水で洗浄しさらに低温管理を徹底し鮮度保持に努め単価の向上を図り、目標年の漁業所得4.5%向上を目指して取り組む。</p> <p>また、さめ延縄漁業8隻は、マリン・エコラベル・ジャパン生産段階認定を受けており、資源管理計画に基づき小型個体1.5kg以下及び特大個体8kg以上のアブラツノザメの放流にも継続して取り組む。</p> <p>その他漁業 漁業者は、漁協及び水産業改良普及所等と協力し枯渇した磯資源を再生するため、区画漁業権内に保護区を設定し、スポアバッグ方式でヨレモクの母藻を設置し藻場を造成する。また、藻場造成後はモニタリングを定期的実施しキタムラサキウニを駆除しながら密度管理を徹底する。</p> <p>さらに、漁業者は、稚ナマコ種苗を購入し、潜水による放流事業を進め、害敵駆除や漁獲サイズ規制（100g以下個体の再放流）による資源管理を徹底し、密漁防止の漁場監視等の活動をあわせて行うことで放流効果を向上させ、漁獲量・漁獲金額の向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>一本釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費1.3%の削減を図る。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.2ノットの減速航行に努め燃油消費量を2.8%減らし漁業経費0.7%の削減を図る。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費0.5%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

4年目（平成29年度）

	<p>一本釣り漁業 漁業者は、クロマグロ船上処理マニュアルを活用し、血抜き、尾鰭切断、神経締め、内蔵処理を行った後、殺菌海水での洗浄、砕氷と殺菌海水での水氷冷却までの一連の作業を手順良く迅速に実施し単価の向上を図り、目標年の漁業所得11.3%向上を目指して取り組む。</p> <p>また、通常流通されていないクロマグロの内蔵の一部（心臓、胃袋）について、ハセツパー水を活用し、ぬめり、臭いの除去及び殺菌処理を実施したものを商品化して県内外加工業者等と提携して販売し、漁業所得の向上を目指す。</p> <p>クロマグロ以外の鮮魚出荷するサクラマス、ソイ等について、漁業者は水産物鮮度保持講習会で修得した技術により、船上で綺麗な魚体を保つための必要最小限の活〆跡となるよう処理するとともに、砕氷を活用して十分な低温管理を徹底し、漁協は活〆処理したものを他の鮮魚と区別して出荷することにより、単価を向上させる。</p>
--	---

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>いか釣り漁業 漁業者は、イカを釣り上げた後、季節毎に砕氷の量を調整しながらイカが綺麗に並ぶよう表面が平になるようコテを使用して砕氷を箱の底部に押し詰めた発泡スチロール箱に迅速に詰め込み、混入物がないようすぐに蓋をし、さらに直射日光等による高温化を防ぐため魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し単価の向上を図り、溶解水によるイカの体色変色の防止や鮮度保持に努め目標年の漁業所得12.9%向上を目指して取り組む。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、サメを釣り上げた後、血抜き、神経締め処理を施し砕氷冷却し鮮度保持に努め、出荷時には殺菌海水で洗浄しさらに低温管理を徹底し鮮度保持に努め単価の向上を図り、目標年の漁業所得4.5%向上を目指して取り組む。 また、さめ延縄漁業8隻は、マリン・エコラベル・ジャパン生産段階認定を受けており、資源管理計画に基づき小型個体1.5kg以下及び特大個体8kg以上のアブラツノザメの放流にも継続して取り組む。</p> <p>その他漁業 漁業者は、漁協及び水産業改良普及所等と協力し枯渇した磯資源を再生するため、区画漁業権内に保護区を設定し、スポアバッグ方式でヨレモクの母藻を設置し藻場を造成する。また、藻場造成後はモニタリングを定期的実施しキタムラサキウニを駆除しながら密度管理を徹底する。 さらに、漁業者は、稚ナマコ種苗を購入し、潜水による放流事業を進め、害敵駆除や漁獲サイズ規制（100g以下個体の再放流）による資源管理を徹底し、密漁防止の漁場監視等の活動をあわせて行うことで放流効果を向上させ、漁獲量・漁獲金額の向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>一本釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費1.3%の削減を図る。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.2ノットの減速航行に努め燃油消費量を2.8%減らし漁業経費0.7%の削減を図る。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費0.5%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

5年目（平成30年度）

取り組みの最終年度であり、前年度に引き続き行うが、目標達成を確実なものとするよう、プランの取り組み状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

	<p>一本釣り漁業 漁業者は、クロマグロ船上処理マニュアルを活用し、血抜き、尾鰭切断、神経締め、内蔵処理を行った後、殺菌海水での洗浄、砕氷と殺菌海水での水氷冷却までの一連の作業を手順良く迅速に実施し単価の向上を図り、漁業所得11.3%の向上を目指す。</p>
--	---

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>また、通常流通されていないクロマグロの内蔵の一部（心臓、胃袋）について、ハセツパー水を活用し、ぬめり、臭いの除去及び殺菌処理を実施したものを商品化して県内外加工業者等と提携して販売し、漁業所得の向上を目指す。</p> <p>クロマグロ以外の鮮魚出荷するサクラマス、ソイ等について、漁業者は水産物鮮度保持講習会で修得した技術により、船上で綺麗な魚体を保つための必要最小限の活〆跡となるよう処理するとともに、砕氷を活用して十分な低温管理を徹底し、漁協は活〆処理したものを他の鮮魚と区別して出荷することにより、単価を向上させる。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、イカを釣り上げた後、季節毎に砕氷の量を調整しながらイカが綺麗に並ぶよう表面が平になるようコテを使用して砕氷を箱の底部に押し詰めた発泡スチロール箱に迅速に詰め込み、混入物がないようすぐに蓋をし、さらに直射日光等による高温化を防ぐため魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し単価の向上を図り、溶解水によるイカの体色変色の防止や鮮度保持に努め目標年の漁業所得12.9%向上を目指す。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、サメを釣り上げた後、血抜き、神経締め処理を施し砕氷冷却し鮮度保持に努め、出荷時には殺菌海水で洗浄しさらに低温管理を徹底し鮮度保持に努め単価の向上を図り、漁業所得4.5%の向上を目指す。</p> <p>また、さめ延縄漁業8隻は、マリン・エコラベル・ジャパン生産段階認定を受けており、資源管理計画に基づき小型個体1.5kg以下及び特大個体8kg以上のアブラツノザメの放流にも継続して取り組む。</p> <p>その他漁業 漁業者は、漁協及び水産業改良普及所等と協力し枯渇した磯資源を再生するため、区画漁業権内に保護区を設定し、スポアバッグ方式でヨレモクの母藻を設置し藻場を造成する。また、藻場造成後はモニタリングを定期的に実施しキタムラサキウニを駆除しながら密度管理を徹底する。</p> <p>さらに、漁業者は、稚ナマコ種苗を購入し、潜水による放流事業を進め、害敵駆除や漁獲サイズ規制（100g以下個体の再放流）による資源管理を徹底し、密漁防止の漁場監視等の活動をあわせて行うことで放流効果を向上させ、漁獲量・漁獲金額の向上を目指す。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>一本釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費1.3%の削減を図る。</p> <p>いか釣り漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.2ノットの減速航行に努め燃油消費量を2.8%減らし漁業経費0.7%の削減を図る。</p> <p>さめ延縄漁業 漁業者は、船底、舵、プロペラ等を洗浄、研磨し、付着生物防止処理を実施し、さらに0.5ノットの減速航行に努め燃油消費量を7%減らし漁業経費0.5%の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	

※ プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※ 「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4) 関係機関との連携

再生委員会、三厩漁協、外ヶ浜町、青森地方水産業改良普及所及び青森県漁業協同組合連合会等の関係機関と連携し、当地区の漁業形態に適合した水産物の鮮度保持に関する情報の共有と、消費者ニーズに対応した生産段階での衛生管理を実施し、高品質な水産物の生産に努め漁業経営の安定化を目指す。
また、県内外水産加工業者、販売業者、飲食店等とも新たな提携を図り、水産物の消費拡大を目指す。

4 目標

(1) 数値目標

一本釣り漁業 漁業所得の向上 %以上	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円

いか釣り漁業 漁業所得の向上 %以上	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円

さめ延縄漁業 漁業所得の向上 %以上	基準年	平成	年度 : 漁業所得	千円
	目標年	平成	年度 : 漁業所得	千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	省燃油活動に取り組むことで、燃油消費量の軽減され、漁業経費の削減が図られる。
水産多面的機能発揮対策事業	藻場の保全活動は、浅海域の生態系保全に効果があり、磯資源の再生が図られる。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。